

21 産婦人科研修プログラム

I 一般目標

卒後研修の目標である、女性特有の疾患に基づく救急医療を研修し、さらに思春期性成熟期、更年期における女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解するとともに、それらの失調に起因する種々の疾患に関する系統的診断と治療を研修し、これら女性特用の疾患を有する患者を全人的に理解した対応する態度を学ぶ必要がある。また妊娠分娩と産褥期の管理ならびに新生児の医療に必要な基礎知識とともに、育児に必要な母性とその育成を学ぶ事は全ての医師に必要不可欠なものである。

II 経験目標

A 経験すべき診察法・検査・手技

1. 医療面接 女性のライフサイクル・性周期を理解したうえで患者の性的な背景について適切な配慮をしながら正確な情報を得る。
2. 基本的身体診察
 - ①全身の診察（精神および意識状態を含むバイタルサイン）
 - ②内診、直腸診による骨盤内臓器の診察
 - ③産科診察
 - ・内診による妊娠初期の骨盤内臓器（膣、子宮、付属器など）の診察
 - ・外診による妊娠中期、後期の診察
 - ・内診による分娩進行状況の診断（頸管開大度、児頭下降度など）
 - ・産褥期の乳房の診察
3. 基本的臨床検査
 - ①各科共通一般検査結果の解釈
（血液生化学、検尿、検便、血液凝固検査、感染症検査、血液ガス、心肺、腎、肝機能検査、細胞診、病理組織検査）
 - ②補助診断および術前術後検査
胸腹部単純 X 線写真
超音波検査（経膣、経腹）の手技と読影
CT、MRI の読影
 - ③産科検査
 - ・経膣超音波による妊娠初期の胎児および胎児付属物の診察
 - ・経腹超音波による妊娠全期間の胎児および胎児付属物の診察
 - ・正常妊娠、妊娠合併症に対する血液、尿検査の解釈
4. 基本的手技
採血 各種注射 血管確保 皮膚縫合 局所麻酔 腰椎麻酔 外来小手術

開腹・膣式手術

産科 分娩介助法 会陰切開、縫合 帝王切開術 流産手術

5. 基本的治療法

出血 ショックに対する処置

輸液輸血管理 術後管理

6. 医療記録

(E): 自ら行った経験があること

- ① 診療録の作成 ※ (E)
- ② 処方箋、指示書の作成 ※ (E)
- ③ 診断書の作成 ※ (E)
- ④ 紹介状、返信の作成 ※ (E)

7. 診療計画

診断治療ガイドラインについて最新情報のアップデートを心がける。

クリニカルパスを活用

入院治療計画を作成し、患者・家族に理解しやすく説明できる

退院後の指導も行う

8. その他

- ①患者および家族とのコミュニケーション、インフォームドコンセント
- ②医療スタッフとの協調、協力
- ③文献検索等の情報収集

B 経験すべき症状・病態・疾患

1. 緊急を要する症状・病態

婦人科領域急性腹症

流産 早産 分娩

2 経験が求められる疾患・病態

(A)疾患については入院患者を受け持ち、(B)疾患については、外来診療または受け持ち入院患者

(合併症含む) で自ら経験すること

- ① 妊娠分娩 (正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎 産褥)
- ② 女性生殖器およびその関連疾患

(月経異常、無月経、不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍)

C 特定の医療現場の経験

1. 救急医療

2. 予防医療 性感染症予防 家族計画を指導できる

Ⅲ 方略

研修施設 婦人科領域は当院、産科領域は提携病院で行う

- 1.原則として研修医は指導医のもとで外来診療を、また病棟では主治医とともに患者を受け持ち、その診療を通して研修目的の達成を目指す。
- 2.研修医は産科ではなるべく多くの分娩介助を、また婦人科では手術患者を中心に治療計画の立案、検査、患者および家族への説明、術前後の管理、処置などを主治医の指導のもとに行う。
- 3.緊急検査、処置、手術などが行われる時は研修医は呼び出され、主治医のもとで研修を行う。

Ⅳ 評価 (EV)

1. 研修医評価票の各項目につき、指導医が評価を行う。
2. 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態について病歴要約で履修状況を確認する。